

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人が学校を卒業してからも、生涯に亘って学び続けることの意義や必要性を理解すること。 現代社会にどのような学びの場があるのかを知り、また学習を保障する法律や法規を知ること。						
授業の概要	キーワード：生涯学習社会の理念と実情の理解 生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を理解するし、また、社会教育施設や、教育に関する自治体行財政や法律についても学ぶ。						
到達目標	生涯学習の目標を具体的に述べることができる。 生涯学習社会の歴史的経緯を説明できる。 現代の生涯学習や社会教育の場を列挙することができる。 アンドラゴジーとリンデマンの生涯学習理論を理解する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史的側面・理念・目標について 第2回 学校教育と生涯学習の関連性及び生涯学習の現状を知る 第3回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 第4回 日本と外国の生涯学習に対する取り組みの比較考察 第5回 人間の成長と発達の理論（様々なライフサイクル論・乳児期から青年期） 第6回 人間の成長と発達の理論（エリクソンのライフサイクルの青年期・成人期・老年期） 第7回 子供の学習と成人の学習の違いについて 第8回 成人期の学習の特徴と学ぶことの意義について（アンドラゴジー理論の紹介） 第9回 成人期の学習の特徴と学ぶことの意義について（リンデマンの生涯学習論の紹介） 第10回 老年期に学ぶことの意義と実情について 第11回 死への準備教育（デス・エデュケーションの紹介） 第12回 社会教育施設および生涯学習施設の紹介及びその管理と運営について 第13回 学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について 第14回 生涯学習および社会教育に関する振興施策と推進に関すること 第15回 生涯学習および社会教育に関する教育法規について						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前 配布資料やテキストを読むこと 授業後 ノートを整理し授業内容を復習すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験70%、小レポート10% 平常点20%						
教科書	『生涯発達と生涯学習』 堀薫夫著 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05667-5						
参考書	『生涯学習論 - 現代社会と生涯学習』、岩永雅也著、放送大学大学院教材						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館概論						
担当教員	中山 創太						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。						
授業の概要	博物館に関する基礎的な知識を学ぶ。それは博物館の定義、種類、機能、歴史などであり、今後の博物館学ならびに実習を進める上での基礎的知識である。さらに講義では、基礎的な知識を学ぶだけでなく、わが国の博物館の置かれた現状を把握することにも努め、これからの博物館のあり方を考える知識と能力を養う。						
到達目標	博物館とは何をする、そして何をすべき機関であるかを知ることができる。またそこに属する学芸員はどのような仕事をしているのか、その資質として何が必要かを知ることができる。また現在の博物館と学芸員を取り巻く問題点も把握できる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1回) 博物館学の目的、方法(博物館論理学と技術学)、構成要素、周辺科学 (2回) 欧米と日本における博物館学史 (3回) 博物館の語源・定義(ICOM・ユネスコ・博物館法の規定)、他機関との相違 (4回) 博物館の種別分類、設置者別分類、法的区分 (5回) 博物館の目的とは (6回) 博物館の機能について (7回) 博物館の社会的機能(地域社会型、観光型、研究型) (8回) 欧米における博物館発達史 (9回) 日本における博物館発達史1(昭和20年まで) (10回) 日本における博物館発達史2(昭和20年以降) (11回) 博物館の現状と課題(種別、地域分布、入館者数など) (12回) 博物館の未来像、博物館と他者との「連携と対話」 (13回) 拡大する文化財概念と世界文化遺産 (14回) 学芸員の役割(定義、役割、実態、諸外国との相違) (15回) 博物館関連法令について 						
授業外における学習(準備学習の内容)	博物館の見学はもちろん、新聞や雑誌、インターネットなどで、できるだけ博物館に関する情報に触れておくこと。講義で学んだことを、現実の博物館にてらしつつ、自分にとって博物館とはという問題を考え続けること。						
授業方法	講義形式にておこなう。						
評価基準と評価方法	平常評価(態度、発表)30%、課題レポート・小テスト等20%、期末筆記試験50%にて、総合的に評価する。						
教科書	授業中にプリントを適宜配布。						
参考書	授業中に紹介します。 ・倉田公裕・矢島國雄著『新編 博物館学』(東京堂出版) ・高橋隆博他編著『博物館学ハンドブック』(関西大学出版会)						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館教育論						
担当教員	守屋 雅史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館における教育活動について、基礎となる理論と実践の知識を習得し、博物館の教育機能に関する基本的な能力を養う。						
授業の概要	博物館は社会教育の場であり、生涯学習の場、観光の場でもある。この二面的な教育のあり方の認識と対応は、現在の博物館にとって重要な課題である。博物館は学びの場としてどうあるべきか、そして利用者に対してどのように教育的活動を支援し、実践してゆけるのかを紹介し、将来的なよりよい教育のあり方を多面的に考察する。						
到達目標	博物館教育の理論と具体例を学ぶことによって、博物館が実践しているさまざまな教育的な活動を理解し、新たな教育活動に関して企画・立案する能力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 インTRODakション（博物館における学びとは？） 第2回 博物館教育の歴史と現状 第3回 社会教育としての博物館（人材の育成） 第4回 生涯学習の場としての博物館（自主的な学びへの対応） 第5回 観光の場としての博物館（リクレーションと教育的配慮） 第6回 博物館の利用実態（多様な利用者とニーズ）と利用者の博物館体験 第7回 博物館における学びの特性（モノを通しての学び） 第8回 博物館教育活動の手法1（講座、講演会、体験学習、ギャラリートーク） 第9回 博物館教育活動の手法2（体験学習と博物館資料） 第10回 博物館教育活動の手法3（子ども向け講座、ワークシート） 第11回 博物館教育活動の手法4（生涯学習としてのボランティア） 第12回 博物館教育活動の手法5（情報提供、資料の特別利用） 第13回 博物館教育活動の手法6（出版事業、ホームページ、紀要） 第14回 博物館教育活動の企画と実践 第15回 学校教育との連携						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館や美術館に実際に足を運び、講演会やワークショップなどに参加した時に、興味を感じたり、疑問を持った点などをピックアップし、博物館における教育のあり方の観点から自分自身の考えをまとめ、講義の終わりに質問などをして理解することが重要である。場合によっては、松蔭 manaba を活用して講義の補足をするので、事業前に確認しておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式。 ただし、人数的に可能であれば、グループ討議なども行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%、レポート10%、リアクションペーパーなどによる平常点30%						
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。						
参考書	『博物館教育論』大高幸・端山聡子 編著（財）放送大学教育振興会（2016.3）ISBN：978-4-595-31614-2						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館経営論						
担当教員	守屋 雅史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館の望ましい管理・運営のあり方について、博物館の組織、施設、行財政の諸問題、市民・地域社会等との連携などの現状と課題に即して考える。						
授業の概要	博物館経営（ミュージアムマネジメント）について、近年の博物館を取り巻く状況をふまえながら、博物館の組織体制や日常的な運営のあり方について紹介し、経営基盤・経営システム（国立・公立・私立）の現状と課題について概観する。また、使命・計画の明文化や自己評価・外部評価、市民サービスのあり方なども取り上げ、博物館が課題解決のためにさまざまな相手との連携活動等に取り組み、社会環境の変化に対応していることを紹介する。						
到達目標	歴史・美術・科学などの幅広い分野の実例を通じて、博物館の組織や活動のあり方などが理解でき、博物館経営に関する基礎的な能力を身につけることができる。そして、市民にとってどのような博物館が望ましいのかについて、市民目線から自身の考えをまとめることで、博物館のあるべき未来像を学ぶことができる。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン（ミュージアムマネジメントの必要性） 第2回 日本の博物館施設と経営形態 第3回 博物館の法体系と運営の実態（組織体制、人材、行財政） 第4回 学芸員の仕事と問題点 第5回 博物館のマーケティング、使命と計画、自己評価と外部評価 第6回 博物館の倫理と行動規範 第7回 博物館の立地、施設、設備（ユニバーサル・デザインと多言語化） 第8回 歴史系博物館の運営 第9回 美術館の運営 第10回 科学系博物館の運営 第11回 専門館、大学博物館の運営 第12回 博物館の危機管理 第13回 利用者サービスと市民参画（友の会、ボランティア） 第14回 他館、他機関、民間との連携 第15回 地域社会における博物館の意義						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館や美術館に実際に足を運んだ時に、展示内容以外の点で興味を感じたり、疑問を持った点などをピックアップし、博物館の中での快適さと不快さとの相違などについても自分自身の考えをまとめ、講義の終わりに質問をして理解することが重要である。 場合によっては、松蔭 manaba を活用して講義の補足をするので、事業前に確認しておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式。 ただし、人数的に可能であれば、グループ討議なども行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%、レポート10%、リアクションペーパーなどによる平常点30%						
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。						
参考書	『博物館経営論』佐々木亨・亀井修 編著（財）放送大学教育振興会（2013.3）ISBN：978-4-595-31413-1						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館資料保存論						
担当教員	守屋 雅史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館資料を後世に伝えていくための理論と実践を習得する。						
授業の概要	博物館資料保存論は、博物館の学芸員をはじめ、実際に文化財や資料・作品などを扱う立場になったときに、どのような心構えで文化財や資料・作品などと向き合うかを学ぶ講義である。博物館資料の保全についての基礎知識を学び、科学的な観点から、保存に関する諸条件や被害への対策、収蔵・展示における問題点などを考え、環境保護と博物館の役割についても理解を深める。						
到達目標	博物館におけるさまざまな分野の博物館資料の保全や博物館資料の展示環境・収蔵環境などを科学的に捉え、博物館資料を良好な状態で後世に保存していくための知識と技術を習得することができる。						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン（資料保存の意義について） 第2回 文化財保護の展開と博物館の成立 第3回 資料の状態調査・現状把握 第4回 資料の修復・修理（考古資料、民俗資料、工芸、彫刻など） 第5回 資料の修復・修理（絵画、書跡、歴史資料など） 第6回 資料の修復・修理（自然史資料、育成動植物など） 第7回 資料の梱包と輸送 第8回 資料保存の諸条件とその影響（温湿度、光、振動、大気など） 第9回 生物被害とIPM（総合的有害生物管理） 第10回 災害の防止と対策（火災、地震、水害、盗難など） 第11回 伝統的保存方法 第12回 収蔵環境における保存条件 第13回 展示環境における保存条件 第14回 地域資源と文化財の保存と活用（エコミュージアム、景観、歴史的環境など） 第15回 自然環境の保護－生物多様性と種の保存－						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館や美術館に実際に足を運んで博物館資料を身近に感じたり、博物館資料の保存についてのニュースやテレビ番組などに関心を持った時に、興味を持った点や疑問を持った点をピックアップし、講義の終わりに質問をして理解することが重要である。 場合によっては、松蔭 manaba を活用して講義の補足をするので、事業前に確認しておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式。 ただし、人数的に可能であれば、実技的な体験学習をしたり、グループ討議を行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%、レポート10%、リアクションペーパーなどによる平常点30%						
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。						
参考書	『博物館資料保存論』 本田光子・森田稔 編著（財）放送大学教育振興会（2012.3）ISBN：978-4-595-31346-2						

科目区分	博物館学芸員課程科目																																																			
科目名	博物館資料論																																																			
担当教員	問屋 真一																																																			
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	博物館資料の種類と特徴、および館活動の最も基礎的で重要な資料収集、整理保管、調査研究等について																																																			
授業の概要	博物館資料の収集、整理保管、活用について、主として人文系博物館の資料に即して理論と方法を概観し、自然科学系博物館の資料に関しては人文系との異なる特徴について理解を促す。資料の活用、公開、調査研究活動が市民と博物館との連携を支えるものであることを理解し、博物館資料に関する基礎的な能力を養う。																																																			
到達目標	博物館資料の種類と特徴について理解し、資料の収集・整理保管・調査研究等について理論と方法に関する基礎的な知識を習得する。また調査研究活動とその公開の意義について考察できるようになる。																																																			
授業計画	<p>前期 博物館資料論</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>博物館資料の意義と資料化</td> <td>…モノとコト、一次資料と二次資料</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>人文系資料の種類①</td> <td>…美術資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>人文系資料の種類②</td> <td>…歴史・考古資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>人文系資料の種類③</td> <td>…民俗資料、その他の資料の種類と特徴</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>収集の理念と方法①</td> <td>…収集方針とコレクション、各館の方針と特徴</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>収集の理念と方法②</td> <td>…収集（寄贈・寄託・購入等）の実際</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>自然史・動植物園系資料の収集</td> <td>…種類、収集の特徴、自然保護・環境教育</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>理工系資料の収集</td> <td>…種類、収集と価値観の特徴と課題</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>資料の分類・整理①</td> <td>…受入、登録の方法と実際</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>資料の分類・整理②</td> <td>…分類と目録の特徴</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>資料の分類・整理③</td> <td>…美術資料の調査と整理</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>資料の分類と整理④</td> <td>…歴史資料の調査と整理</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>資料の公開</td> <td>…理念と方法、特別利用、データベース</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>調査研究の意義と内容</td> <td>…個人研究と共同研究、地域調査と資料調査</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>成果の公開と方法</td> <td>…調査研究報告と展示活動、地域社会への還元</td> </tr> </table>							第1回	博物館資料の意義と資料化	…モノとコト、一次資料と二次資料	第2回	人文系資料の種類①	…美術資料の種類と特徴	第3回	人文系資料の種類②	…歴史・考古資料の種類と特徴	第4回	人文系資料の種類③	…民俗資料、その他の資料の種類と特徴	第5回	収集の理念と方法①	…収集方針とコレクション、各館の方針と特徴	第6回	収集の理念と方法②	…収集（寄贈・寄託・購入等）の実際	第7回	自然史・動植物園系資料の収集	…種類、収集の特徴、自然保護・環境教育	第8回	理工系資料の収集	…種類、収集と価値観の特徴と課題	第9回	資料の分類・整理①	…受入、登録の方法と実際	第10回	資料の分類・整理②	…分類と目録の特徴	第11回	資料の分類・整理③	…美術資料の調査と整理	第12回	資料の分類と整理④	…歴史資料の調査と整理	第13回	資料の公開	…理念と方法、特別利用、データベース	第14回	調査研究の意義と内容	…個人研究と共同研究、地域調査と資料調査	第15回	成果の公開と方法	…調査研究報告と展示活動、地域社会への還元
第1回	博物館資料の意義と資料化	…モノとコト、一次資料と二次資料																																																		
第2回	人文系資料の種類①	…美術資料の種類と特徴																																																		
第3回	人文系資料の種類②	…歴史・考古資料の種類と特徴																																																		
第4回	人文系資料の種類③	…民俗資料、その他の資料の種類と特徴																																																		
第5回	収集の理念と方法①	…収集方針とコレクション、各館の方針と特徴																																																		
第6回	収集の理念と方法②	…収集（寄贈・寄託・購入等）の実際																																																		
第7回	自然史・動植物園系資料の収集	…種類、収集の特徴、自然保護・環境教育																																																		
第8回	理工系資料の収集	…種類、収集と価値観の特徴と課題																																																		
第9回	資料の分類・整理①	…受入、登録の方法と実際																																																		
第10回	資料の分類・整理②	…分類と目録の特徴																																																		
第11回	資料の分類・整理③	…美術資料の調査と整理																																																		
第12回	資料の分類と整理④	…歴史資料の調査と整理																																																		
第13回	資料の公開	…理念と方法、特別利用、データベース																																																		
第14回	調査研究の意義と内容	…個人研究と共同研究、地域調査と資料調査																																																		
第15回	成果の公開と方法	…調査研究報告と展示活動、地域社会への還元																																																		
授業外における学習（準備学習の内容）	日頃から多くの博物館、展覧会を見学することが望ましい。 また授業で得た知識や問題意識をいかして博物館、展覧会を見学し、新たな疑問や課題を持つことが重要です。																																																			
授業方法	講義																																																			
評価基準と評価方法	試験またはレポート(6割)に加え、提出物や授業態度、意欲などの平常点(4割)を重視する。																																																			
教科書	適宜プリントを配布する。																																																			
参考書	講義中に適宜紹介する。																																																			

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館情報・メディア論						
担当教員	塚原 晃						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館・美術館におけるICT（情報コミュニケーション技術）の応用						
授業の概要	博物館が収集した1次・2次資料に関する情報は、博物館活動を展開する上で基幹となる情報である。近年、ICTの発達が目覚ましいが、それに伴い博物館情報のデジタル化も急速に進められている。これは博物館情報に新たな価値を付与するとともに、博物館活動に大きな変化をもたらしている。その結果、情報の管理や活用上の新たな課題も生じており、学芸員にはそれに対処する知識・能力が求められている。そこでこの科目では、博物館が持つ情報の意義と、近年の各メディアを用いた博物館活動の展開について、具体的事例をもとに学び、新たな課題についても理解を深める。						
到達目標	博物館で扱う多様な情報およびコンテンツの実際について、様々な事例を通して触れることができる。また、情報・コンテンツの管理・公開に必要なスキルや法令に関する基本的知識を習得できる。						
授業計画	第1回 博物館における情報・メディアの意義と種類（博物館での9種類の情報） 第2回 博物館活動の情報化（調査研究・教育普及から広報・広聴活動まで。学校・図書館・研究機関の情報化との相違と関連） 第3回 メディアの理論・歴史と情報の意義・メディアとしての博物館（メディアの発展と博物館・情報） 第4回 コレクションドキュメンテーションとデータベース化I 第5回 コレクションドキュメンテーションとデータベース化II 第6回 コレクションドキュメンテーションとデータベース化III 第7回 デジタルアーカイブの現状と課題（画像データベース構築事例を中心に） 第8回 情報機器の活用（情報機器に関する知識・経験） 第9回 情報管理と情報公開I（博物館での情報管理システム構築） 第10回 情報管理と情報公開II（情報公開の実際・コンテンツ制作について） 第11回 ICT社会の中の博物館（博物館でのインターネットの活用、特に情報資源の双方向活用と役割・情報教育とメディアリテラシー、博物館メディアの役割と学習活用） 第12回 情報倫理・映像倫理（情報・コンテンツの公開で博物館に求められる倫理観） 第13回 博物館と知的財産I（個人情報・知的財産権のあらまし） 第14回 博物館と知的財産II（権利処理の方法） 第15回 博物館の情報化と新たな価値の創造（課題レポートの発表）						
授業外における学習（準備学習の内容）	この授業では、博物館・美術館のインターネットによる情報発信・共有について話題になることが多いので、授業中に指定したWEBサイトなどを閲覧し、次の授業に必要な情報収集を求める場合がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題レポート40%、平常点60%（詳細は初回講義で説明）						
教科書	なし。						
参考書	『文化財写真の保存に関するガイドライン～デジタル画像保存の実情と課題～』（文化財写真保存ガイドライン検討グループ作成、（一社）日本写真学会、文化財写真技術研究会発行、2012 5月） www.spstj.org/item/pdf/1337264652_event_pdf2.pdf						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館実習						
担当教員	守屋 雅史						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	3.0
授業のテーマ	博物館学芸員養成課程における4年間の学修の総まとめとして、博物館の見学や学芸員の仕事を体験することを通じて、博物館運営と学芸員の業務の実態を理解する。						
授業の概要	博物館実習は、夏期の学外の館園実習を中心に、その事前事後の講義・演習による指導と、学内で行う博物館資料の取扱などの実務実習、多様な博物館を観察する見学実習（日曜日）で構成される。夏期の学外の館園実習は各学生の能力に応じてできるだけ専門領域関心分野に関わる実習館を用意するが、実習する各博物館については事前に全員で施設内容を学び、調査発表などによって互いに知見を共有し、各自実習の内容に備えるものとする。なお、このシラバスには学外での館園実習（夏期5～6日の終日）の内容は含んでいない。						
到達目標	博物館・美術館の見学実習や、講義・演習・実技実習などによる学内実習によって、多くの種類の博物館・美術館の実状と学芸員の多様な業務の内容を知ることができる。さらに、夏期の学外の館園実習に参加して、そこで働く学芸員の実際の業務を体験し、博物館・美術館の経営の実態や学芸員の幅広い実務を実感することで、学芸員になるための実践的な能力を身につけることができる。						
授業計画	<p>学外の館園実習があるため授業の内容や日程はまだ未定部分が多い。そのため、受講許可による授業なので学科からの連絡で登録を許可されたものは、4月の第1回目の授業に出席して、授業日程と具体的内容、その他の詳細や注意事項に関する説明を受けること。</p> <p>（前期（予定））</p> <p>第1回 オリエンテーション（学内実習と学外実習について）</p> <p>第2回 美術館・博物館の種類と内容</p> <p>第3回 博物館・美術館の見学実習1（日曜日）</p> <p>第4回 学芸員の仕事1（絵画・書跡などの調査と取扱い）</p> <p>第5回 学芸員の仕事2（彫刻・工芸品の調査と取扱い）</p> <p>第6回 学芸員の仕事3（作品の梱包と展示）</p> <p>第7回 博物館・美術館の見学実習2（日曜日）</p> <p>第8回 夏期学外館園実習の準備</p> <p>* 夏期休暇中に学外の館園実習がある。（館と時期日程の確定は6、7月頃）終日5～6日程度（予定）</p> <p>（後期（予定））</p> <p>第9回 実習報告と自己評価</p> <p>第10回 展示会の企画と運営</p> <p>第11回 博物館・美術館の見学実習3（日曜日）</p> <p>第12回 博物館・美術館の見学実習4（日曜日）</p> <p>第13回 博物館の教育普及、収集と保存</p> <p>第14回 博物館・美術館の見学実習5（日曜日）</p> <p>第15回 文学部での学修と学芸員養成課程の総括</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	プライベートな時間に博物館や美術館に実際に足を運んで博物館・美術館を身近に感じたり、博物館・美術館や博物館資料に関するニュース・テレビ番組などと接した時に、興味や疑問を持った点をピックアップし、講義の終わりなどに質問をして理解することが重要である。場合によっては、松蔭 manaba を活用して講義の補足をするので、事業前に確認しておくこと。						
授業方法	基本的には、学内での講義と演習、学外での見学実習（日曜日、5回の予定）、及び夏期の学外館園実習からなる。出席重視し、可能であれば、少人数クラスにおける個別指導も行う。						
評価基準と評価方法	リアクションペーパーなどによる平常点70%、レポート30%						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館展示論						
担当教員	守屋 雅史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	博物館資料の展示を通じて、展覧会の主旨を観覧者に伝達する方法の理論と実践を習得する。						
授業の概要	博物館展示論では、学芸員がどのような意図をもって、どのような方法で、一般の人々に対して博物館資料を提示し、観覧者とのコミュニケーションを図っていくべきなのかを学ぶ。考古資料・歴史資料・美術作品・自然史資料などの幅広い分野の展示の実践例を通じて、展示に関する理論や歴史、教育的実践、具体的な技術や手法を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的な能力を養う。さらに、展示の解説活動として、作品解説や展示解説パネル、人や機器を用いた解説法、展覧会図録などの製作についても学習する。						
到達目標	展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態などに関する理論、及び展示方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的な能力を身につけることができる。						
授業計画	第1回 インTRODakション（博物館における展示のあれこれ） 第2回 コミュニケーションとしての展示、調査研究の成果の提示 第3回 展示と展示論の歴史、展示の政治性と社会性 第4回 展示の製作 ―企画から施工まで― 第5回 関係者との協力（博物館連携、所蔵者、ディスプレイ業者、輸送業者） 第6回 展示の評価と改善・更新（自己評価と外部評価） 第7回 平常展示の諸形態1 ―美術館などの展示― 第8回 平常展示の諸形態2 ―歴史系博物館などの展示― 第9回 平常展示の諸形態3 ―科学系博物館などの展示― 第10回 特別展（自主企画展・巡回展）の企画と運営 第11回 展示技術のいろいろ 第12回 作品解説と展示解説パネル 第13回 人による解説 ―学芸員、ボランティア解説員― 第14回 機器による解説 ―ビデオトーク、ジオラマ展示、レプリカ展示― 第15回 展示解説書 ―展覧会図録の作成―						
授業外における学習（準備学習の内容）	博物館や美術館に実際に足を運んで展示を見た時に、興味を持った点や疑問に思った点をピックアップし、自分が展示を企画することになったら、どのような工夫をしたいかなどの観点をまとめ、講義の終わりに質問などをして理解することが重要である。 場合によっては、松蔭 manaba を活用して講義の補足をするので、事業前に確認しておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式。 ただし、人数的に可能であれば、実技的な体験学習をしたり、グループ討議などを行う。						
評価基準と評価方法	期末試験60%、レポート10%、リアクションペーパーなどによる平常点30%						
教科書	授業中にプリントを適宜配布する。						
参考書	『博物館展示論』稲村哲也 編著（財）放送大学教育振興会（2016.3）ISBN：978-4-595-31613-5						